

横浜国際港都建設審議会

第1回部会 第2部会（グローバル化関連）

平成17年6月21日（火）

《出席委員》小林重敬委員（部会長）、飯沢清人委員、岡部明子委員、加納重雄委員、

トイ チャールズ ファウラー委員、萩原なつ子委員、長谷川まや委員、

ベルデリア イワティ チャンドラウィ委員、森敏明委員、横山正人委員、吉村恭二委員

<欠席>黒川勝委員、志村善一委員、高梨昌芳委員

議事

【部会長】

それでは、時間になりましたので、これから第1回の部会を開かせていただきます。この部会は第2部会ということで、グローバル化関連という、非常にわかったようでわからないような命名になってございます。そのようなことで議論させていただきたいと思いますが、先ほど市長さんのお話にもございましたように、新しい社会動向の中で、1つの大きな動きはグローバル化、これはさまざまな局面を持っておりまして、私は都市計画、都市づくりの分野ですけれども、都市づくりの分野でもグローバル化というのは大きな話題になってございますが、それ以外にお集まりのさまざまな分野の方が、それぞれグローバル化に対応する何らかの影響を受けたり、あるいはそれをうまく生かして、自分の活動領域を広げようとしていたり、逆にさまざま問題をそこから引き起こして、それに対する対応をいろいろ悩んでいる分野ではないかと思っております。そのようなかなり幅広の議論になるとと思いますが、皆様のご協力を得て、具体的な長期ビジョンをつくり上げなければいけませんので、ぜひ、その辺のご協力をお願いしたいと思います。

それでは、議事に移らせていただきますが、その前に、各委員に一言、これから皆さんこの顔合わせでいろいろ議論しますので、自己紹介を簡単をお願いしたいと思います。委員名簿がございます。私が先頭に出ておりますが、その後、名簿順にご紹介いただければと思います。

各委員自己紹介

【部会長】

それでは、次第の第1が終わりました。第2でございます。部会長職務代理者の指名でございます。部会長に何か事故があるときに代理をしていただく方ということで、萩原先生にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、次の議事でございます。資料説明を事務局からいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

事務局より資料説明

【部会長】

ありがとうございます。

それでは、これから議論させていただきたいと思いますが、きょうは第1回ということもあって、先ほど資料説明がございましたが、今後議論するに当たってこのような視点が必要ではないかとか、あるいはこういう資料も必要ではないかというようなことも含めてご意見をいただければと思っております。若干私の感想を述べさせていただくと、旧来型の資料が圧倒的に多くて、これから20年後を議論するに当たって必要な資料がもう少しあるのではないかなという感じがするんですが、その辺も含めてご意見をいただければと思います。

最初に私が気になったのは、人口です。20年後をどのようにとらえるか、少なくとも人口面では、横浜市はかなりの成長都市なんですね。最後の5年間は減少するけど、ここ20年間はやはり人口が増加する。おそらく世帯数は、人口を見ると、ここ20年間減らないでしょう。そういう横浜市の特徴的な人口の動向を、先ほど第1部会では人口減少という形で議論していますよね。ところが、我々都市づくりの面から考えると、少なくとも実態としての人口は減少しない、世帯がおそらく増えていくのがここ20年間ですから、そのことをどのように理解して第1部会の議論と合わせるかというのがちょっと気になるんですね。

幾つかの考え方があって、1つは、そうはいつでも15年後あたりから人口が減少してくる、それは、今後さらに30年、40年と人口減少の始まりであるというふうに考えると、都市づくり、あるいはさまざまな領域で、そういう人口減少が予見される時代に入っているという形で議論するという手もあると思うのです。その辺をどのようなスタンスで議論していくかというのが気になったんですが、皆さんのご意見はどうでしょ

うか。

そもそも論なんですよ。私は、特に都市づくりの面から考えていますから、ちょっとその辺が気になっていまして、事務局としては何かその辺のお考えはおありですか。

【事務局】

まだ十分に議論はされていないんですが、区別の推計人口が、先ほどの2ページの下の方にございますが、既に2020年の段階では半数以上の区が減少傾向に入っていて、一部の区が引っ張ってまだバランスがとれているというような状況になりますので、市内各地で人口減問題の起きる部分と、まだまだ伸びていく部分、両方が混在していくような問題が生じるということは大体推計からわかります。

先生がおっしゃったように、ほかの都市に比べますと、まだ15年後まで人口が伸びる予測になっていますので、そういった意味ではちょっと違う可能性もあるんですが、マクロで見るのか、ミクロで見るのか、その辺でさまざまな問題の出方が違うのかなと思います。

【部会長】

わかりました。

細かに言うと、確かにこういう動向があるから、場所によって、ある意味で二極化してくる可能性もあるわけですね。都心部とか、あるいは利便性の高いところは人口が増加し、世帯も増加する。そうでないところは、むしろ人口・世帯も既に減少が始まっていて、それが顕著なところが局所的にあらわれてくるかもしれない、そういう状況を想定して、これからの議論をしたらどうかという事務局のご提案ですね。

そんなところでよろしいですか。基本的なところなので、ちょっと気になったんですが。もし、よろしければ、そういうことを念頭に置きながら、人口については考えていくということにしたいと思います。よろしいでしょうか。何かご意見があれば、いただきたいと思います。

【委員】

前提という意味ではいいと思いますが、果たしてそれが横浜にとって望ましいのか。都筑区では毎年4,000人から5,000人ぐらいの人口増があるんです。この表を見てびっくりしました。これでどんどん伸びていくんだろうなと思いますけれども、人口増の要因というのは、東京に近接している、青葉区もそうですが、決して横浜に魅力があるから増えているわけではないということも一方では言えると思いますので、それを

どうしていくかということが次の議論だと思います。前提としては結構だと思いますが、ただ、それがいつまでも同じ傾向で議論を進めると、果たして横浜のあるべき姿というのが、東京のベッドタウンという一つの昔から言われたことを肯定することにもつながるので、そういう心配もあります。

今後、そういうことで求心力をいかに高めていくかということが必要だろうと思います。

【部会長】

ほかにいかがでしょうか。この問題だけを議論しているわけにはいかないんですけど、もしそのようなことでよろしければ、人口についてはそういうことで議論していくことにしましょう。

ほかに何かご意見、どこからでも結構です。

【委員】

第2部会の論点と進め方という中の言葉ですけれども、「国際都市・横浜の姿」で、一番最後に「それぞれの地域が抱える市民生活の国際的な課題と「異文化交流」と書いてあって、異文化というのはよく使うんですけれども、私はむしろ多文化としたほうがいいのではないかと思います。日本語の文化を1つにして、異人さんとか異国みたいな形で、これはよく使う言葉ですから、決して非難するわけではないのですが、多文化と言ったほうがいいのか。言いかえれば、日本にもたくさんの文化があるはずですから、そういうことを含めて多文化と言ったほうがいいのか、これは意見であります。

それから、2番目に、今、国籍数だけでいいますと、約150の国籍の方が横浜にいらっしゃる、6万7,000人近くでしょうか。そうすると、異文化、多文化のこととちょっと矛盾するのですけれども、少なくとも国籍でとらえる統計上の推移みたいなものが、今後どうなるのかはちょっとわかりません。しかし過去、今までどういうふうになってきたのかというようなことと、それから、多分、東アジア云々と書いてありますけれども、私も、ある意味では国際化というよりも都市間交流というのが今後さらに盛んになっていくだろうというふうに思いますので、都市というとらえ方の中で何らかの形の統計があれば、大変参考になるのではないかと思います。

それから、やはり同じことですけれども、多分、議論を進めていく中で、横浜での多文化共生などというときに、教育の問題は避けて通れないだろうというふうに思いますので、小・中・高あたりの、あるいは大学も含めて、教育の国際化、多文化化とでもい

うのでしょうか、それが今後さらに進むだろうというふうに思いますと、それ自身を裏づける何かバックデータとか、将来展望のようなものがあるかないか。

それから、横浜に現在住んでいる外国人市民の方々の生活意識調査というものがもしあれば、今後、非常に大きな参考になるんじゃないかというふうに思います。

私は、そういうことをぜひお願いできればと思います。

【部会長】

今おっしゃった都市間交流というのは、横浜と諸外国の都市との交流がどうなっているかという情報が欲しいと。横浜と、ある国という情報ではなくて、そういう意味ですね。

【委員】

今の意見に大変賛成で、異文化、多文化交流というのは非常に重要だと思います。そういうふうに、やっぱり文言というのは非常に重要だと思います。

私の大学にも、新しい学部を設置するときに、留学生を各学年30人以上とることがありまして、非常に多いんです。一応、中国、韓国の方が多いのですが、ほかにも遠くイランから来たりということで、大学という場が多文化交流に一つの大きな役割を果たしておりますので、先ほどおっしゃったような、そういった意味でのデータというものが重要になってくるかなと思います。

それから、都市間交流のところで、私、勉強不足なので、横浜市がどのような姉妹都市を持っていらっしゃるのか、あるいは各区も持っていると思うので、そのデータが欲しいということです。

というのは、ちょっと今の議論とは離れますが、これから食べられるまちづくりというのが非常に重要になってまいりますので、横浜市の自給率がどうなっているのかなどを含めて、他の都市との、あるいはローカルなところとのつながりの中での、どのように食べられるまちづくりをしていくかという意味でも、そういうデータが欲しいと思いました。

それから、先ほど市長さんが、広い意味での横浜市民ということをおっしゃっていましたので、どうも、ここに在住している人だけではなくて、横浜にかかわる方たち、いらっしゃる方たち等も含めての市民ということだと思っておりますが、その中でも、先ほどの観光のところで、やはり日帰り客が多いと。でも、日帰り客が果たしてほんとうに悪いのかどうかということですね。それだけ来てくださるということですから、日帰り客

の方々を取り込んでいく何らかの方法もあるでしょうし、あるいは、なぜ日帰り客が多いのかとか、そのデータがあればいいなと思いました。含めて、泊まってみたくなるようなまちづくりということが、今後重要になってくるのかなというふうにも思っていますので、データがあるかどうかわかりませんが、あればいいなということで意見とさせていただきます。

【委員】

実は私、気になったんですけど、横浜が国際的なまちというのはどういう意味かですね。なぜかという、私は外国人で、横浜に住んでいるのですが、結構住みにくいのです。結構、横浜のウェブサイトでも英語があるんですけども、ほかの大都市に比べれば、なかなか情報があまり入っていないんですね、英語では。

それから、もうひとつなんですけど、以前なにかの調査であったのですが、日本人は外国人が増えたら犯罪が増えると信じています。90%の日本人がそう考えています。だから、市民のマインドを変えることによって、横浜が世界の国際的なまちとなるようにしたほうがいいのではないかと考えています。

もう一つは、まちづくりなんですけど、私は個人で、都市と都市の協力の調査をやっています。横浜は国際協力、友好をやっていて、いろいろなところに専門家派遣もやっています。でも、日本にいる外国人は、まちづくりになかなか参加していないのです。やっぱり、町内会も入っていないし、言葉の問題があるからだと思います。私は将来、横浜市にいる外国人にまちづくりに参加してほしいと思っています。将来も2025年まで、多分、外国人は増えると思います。だから、そういうことも考えてもらいたいなと思っています。

【委員】

私は横浜にいる在日外国人の人口分布に興味を持ちまして、この間、南区役所まで外国人登録人数のデータをいただけないかと聞きに行ったら、区のレベルのデータしかくれないと言われました。要は、南区、中区、そしてもっと細かいデータはなかなか出せないと言われまして、これから、町レベルぐらいの外国人の登録数のデータが手に入ればすごくおもしろい調査ができるのではないかと考えております。

もちろん、個人情報とかをしっかりと守る必要があると思うのですが、今まで外国人の人口の変化とか、どういう道をたどってきたかをしっかりと押さえることによって、外国人に対応できる方針とかをもう少し明確にできるのではないかと考えております。

そしてもう一つは、都市づくりの話なのですけれども、今、横浜市役所で考えられている都市再生プロジェクト、建設的にはどういうプロジェクトがあるか。具体的にこれからどういうビルとか公園とかをつくっていく計画かを知りたいのです。

今、例を挙げると、みなとみらい駅から北へ向かって、ジャックモールあたりに空き地がいっぱいあります。今は芝生とかになっているので、建築中のところもあるのですが、少し余談なんですけど、私は大都市の熱環境を勉強しておりまして、ヒートアイランド現象の対策としては、強烈な緑を置くのが一番効果があるんですね。ですから、大きな公園の計画とかがあれば、その情報は知りたいと思っております。

【部会長】

海外の方が横浜に住むとすると、区レベルで選択するのではなくて、おそらく地下鉄沿線であるから住む、そういう特殊要因が働いている部分があって、もう少し細かい選択をしていらっしゃるのではないかなと思うんです。それが実態としてどうなっているのかということを知りたいということですから、生のデータを出すのは、なかなか個人情報的に難しいと思いますけど、もし行政側でその辺を分析して出せるようであれば、おもしろいデータかなとは思いますが。ちょっと大変なデータになるかもしれないので、可能な限りで結構なんですけど、少しご考慮いただければと思います。

【委員】

今のお話ですけど、私は、横浜市の中でも中央部に位置していなくて、いわゆる郊外部と言われる瀬谷区に在住しています。横浜市でも郊外、さらにもっと、どう言ったらいいんでしょう、中央から遠いところは、いわゆる横浜の市営住宅なんか意外とあるところなんです。そういった部分では、瀬谷区とか泉区というのは、意外と市営住宅が多いところですし、そういうところは、町の中にいろんな国の方がいらっしゃるんです。もっと言うと、団地の中にいろんな方が住んでいらっしゃいまして、ある意味では多文化というか、異文化というか、それが団地の中に見えるんです。そういった部分では、そこでは、もちろん日本語が基調なんでしょうけれども、それぞれの国の方のお言葉、文化がありますから、それぞれが工夫して、文字が、それから言葉がいっぱい張ってあって、ある意味では非常に、大変多くの国の方がいるにもかかわらず、意外とコミュニケーションができていくという感じがします。そういったところは、意外と郊外の一部にあると言っていいのかな、むしろMM21よりか、私どもの瀬谷区とか泉区のほうが、ある意味ではグローバル化しているというふうに見えるのかなと思います。

そういった部分では、先ほど来のお話にあったように、確かに区別の外国の方たちの状況というデータは多分あるんでしょう。ただ、今言ったように、町内別、自治会別というとなかなか難しいのかなと思いますね。ただ、今後の20年間を展望していく中で、今の議論というのは大変ありがたい議論で、横浜市のグローバル化というよりは、むしろ、いわゆる各区、各町内のそういったものが横浜市全体のステータスになってくれば大変ありがたいことで、もっと言うと、郊外部ではもうそういうことが始まっているという。だから、そういったこともある意味では視野に入れていただいて、本市のグローバル化、都市整備等も含めて、多文化交流、異文化交流なんかも、むしろ中央部に焦点を当てるよりは、既にそういったことが始まっているということを見据えた上で、今後議論していただければありがたいなと思います。

そこには、いわゆるバリアフリーも、ほんとうにいろんな国の人によって見方が違ってくるとか、それから、都市整備という観点からしても、全く違った見方をしています。そういった意味では、そのの連合自治会長さんなんかは困っているというか、なるほどな、こういう発想なのかということが既に起きているという。そういった部分では、各区の在日の方の数もそうですけれども、各町内会別の在日者の数、例えば特化してそういう地域だけでも見ていただいて、そこでどういうことが行われているのかということなんかも参考にしていくと、20年後の本市の、いろんなグローバル化を中心とした都市整備その他のものが意外と見えてくるというふうに、郊外部に住んでいる私は思っております。意見でございます。

【委員】

要するに、グローバルということは、ローカルがグローバル化するわけですからグローバルなんですね。ますますグローバル化が進むだろうと思うんです。ですから、市をマクロとしますと、横浜市全体のマクロで、それをどうやってグローバルでとらえるかというよりも、スポットを、ほんとうに生活の拠点の中のグローバル化、これは情報が既にどんどん入り込みますから、もっと進むだろうというふうに思いますので、視点としまして、統計をどうするかというのはわからないんですが、できる限り、ごく日常生活の中にグローバルというのが入ってグローバルソサエティーができていくという、これは実態だと思うんです。20年先にどうなるかというのはまだわからないんですが、視点としてはそういうことをいつも頭の中に置きながら議論していかないと、経済とか物流、そういう数量化できるだけのものだけではなくて、そういう意味ではもっとグロ

ーバルというか、グローバルな視点が必要だと思います。

それから非常に重要だと思うのは、都市づくりの中で、日本人にとって憩えるまちは、だれにとっても、多様な文化を持ったいろんな人たちが憩えるまちなんですね。ですから、特別に外国人として扱う必要はないだろうというふうに思いますから、すばらしい緑がある公園がたくさんあるまちというのは、ほんとうにだれが来ても楽しいまちだろうというふうに思います。あまり外国人、外国人というのじゃなくて、むしろ、もっと普遍化した形でグローバルな立場を考えてみたらどうなのかなというのが、視点だけの話でございます。

【委員】

外国人と日本人というのを色分けをしないというのは非常に賛成であります。ですが、国際港都ということで議論しているわけで、外国人の視点というのが、私たちにとって学べる視点を与えてくれるというところもあると思うんです。

そういう意味で、最初の基本構想ができました昭和48年の時点で国際都市といったときと、現在の国際都市というのはかなりイメージが違うであろうと思います。横浜が国際港を伝統的に持っているということだけで国際都市というイメージがあったのに対しまして、現在では、今皆さんの議論にありますように、都市生活自体がどこまでグローバル化がしみ込んでいるかというところで、国際都市としての地位というのが決まってくるというような新たな状況にあるのではないかと思います。

この部会では、かなりフィジカルな空間のことを扱っていくことになると思いますので、ぜひ地図の上に、外国人が住んでいるところというのが例えばプロットされている地図があり、それが特定できないような形でプロットされていれば、個人情報面などでも問題ないですから、分布としてどのようなところに住んでいるかというのがわかるような地図がビジュアル化されてあたりするとおもしろいのではないかと。

また、外国人学校がどういうところにある、外資系企業はどういうところにあるというグローバル化マップみたいなものがありますと、また外国人の方も、横浜とかかわりを持つとしたときにつかみやすいものになるのではないだろうか。手間はありましようけれども、だれにでも一目でわかるようなマップというのができたらおもしろいのではないかと思います。

【委員】

今のお話に関連するかと思いますけれども、国際都市というのはだれが決めるかと。

横浜市民が国際都市というのも、私は何かおこがましく感じるんですね。国際都市にするには、あらゆる国の人たちが横浜に住んでみて、その人たちがお国と変わらない状況の中で安心して住み続けられる、そして横浜の市民とも心の通った地域コミュニティをつくっていける、それが国際都市なのではないかと私は思うんですけども。

今、6万7,000人いる外国人に、横浜は国際都市ですかということを問いかけ、何が国際都市に足りないのか聞くのが一番手っ取り早いのかなというふうに実は思うわけです。

今、他の委員からも、既に地元はローカルでそういった国際化が進んでいるというお話がありましたが、保土ヶ谷にもビジネスパークがございまして、ここにはいろんな外資系の企業が入ってきておりまして、地域にいわゆる外国の方が住んでおられる。便利で合理的な住まい環境に住むのかなと思うと、意外に公園の近くのマンションなり共同住宅に住む方たちが多いんです。保土ヶ谷には、県立の保土ヶ谷公園がございまして、見ていますと、自転車に乗ってきて、家族がピクニックがわりにお弁当のバスケットを開いて、日常そこで家族が楽しんでいます。

家族でお弁当を持って近くの公園に行く、昔はそういう光景があったんですが、それがなくなってきており、いわゆる我々日本人というか横浜の人は、自然と共存していくというのが日々の生活の中で何か薄れてきているような、そういうところがすごく、多文化といいますか、そういったものが横浜の中に入ってくると、参考になるし、失われていたものがよみがえってくるような気がしております。

ローカルで既に始まっている、その中で、どう地域で受け入れていくか、その集大成というのが全体のいろんな制度なり受け入れであり、いわゆる外国人に対しての行政サービスなり、こういったものの門戸を広げて、横浜市民と変わりなく扱うといいますか、条件整備をすることが大事なのかなと、私は今、皆さんのお話を聞きながら感じた次第でございます。

そういう意味では、外国から来られた方が、横浜を国際港都と国際都市としてどれだけ認めてくれているのかなというのが非常に関心があります。

【部会長】

今後、その辺はいろいろ議論していきましょう。

グローバルという議論が出てまいりました。おそらく事務局で考えていたグローバル化というのは、もう少し大きな議論をする、経済的な展開を中心に、都市間競争とかそ

うということ言葉が出てきましたね。ただ、委員の中から、そればかりではありません、むしろ重要なのは、地についた、グローバルというようなグローバル化の動向も一緒にとらえないと、正しい意味でのグローバル化をとらえたことにならないではないかというご意見がかなりありました。ぜひ、そういう点を大きな視点として入れていただきたいと思います。

この議論ばかりやってもどうかと思うんですけど、他にご意見があればどうぞ。

【委員】

第1回目でありますので、お願い申し上げたいのは、せっかくこういう資料がありますので、ぜひ事前にいただければ少し準備ができますので、今日当日見て、いろいろと、こういう資料がどうだとかということだと、ちょっと時間的なむだになりますので、ぜひ事前にいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

まず、人口統計のところでありますけれども、区別に見ると、かなりばらつきがありまして、地域事情が反映されていると思うんですけれども、同様に人口バランスも、やっぱり地域別でかなり違うんじゃないかと思うんです。ですので、ぜひ区別の人口ピラミッド推計をいただきたいと思います。

それと、グローバル化のことでありますけれども、定住外国人の方の目的別の数、例えば永住であったとして、中国や韓国なら特別永住の方とかいらっしゃるでしょうし、あとは日本人の配偶者として定住されている方もいるでしょうし、あるいは留学だとか、短期の滞在だとか、そういういろんな目的があると思いますので、目的別の定住外国人の数、これもできれば区別にいただきますと、地域柄がよくわかっていいと思いますので、お願いしたいと思います。

それと、資料があればですが、市内の外国企業に対して、例えば公なり地域がこういう配慮をしてもらいたいとか、今まで、統計資料ですとか調査が行われたのであれば、そういった資料をいただきたいですし、同様に、例えば国内企業に対しても、グローバル化に関して希望ですとかそういったもの、例えば外国人の技術者を受け入れるに当たって、出入国管理を緩やかにしてもらいたいとかいろいろな要望があると思いますけれども、そういった市内企業の希望などの調査がありましたらお願いしたいというふうに思います。

それと、国際化に当たって、やはり国内、いわゆる横浜の市内の問題を考えながら国際化を考えていかなきゃならないと思っておりまして、いわゆる横浜の子供たち、大人

も含めてですけれども、地域に対する考え方、地域観、あるいは日本に対する国家観、そういった、我が国や自分の地域に対しての考え方や、そういったものがなければインターナショナルになりませんので、学校教育、あるいは社会教育の場、そのほか公共にかかわる教育といったものが行われている実態があるのかどうかということについても教えていただきたいというふうに思います。

それと、先ほど食糧の問題が出ましたが、私も関心のあるところで、横浜市内の食糧自給率を品目別に教えていただけるとありがたいんですが、例えばほうれん草だとか菜っぱは自給率は非常に高いと思いますけれども、そのほかの野菜類の中でも、横浜市内では賅えないものがあるかなと思います。肉類なんかもそうですし、そのほかのものを、できれば細かく横浜市内での食糧自給率について教えていただきたいと思います。

それと、環境についてでありますけれども、環境を保護する問題と都市開発の問題というのは、相反するところが非常に多くて、横浜も、我々が住んでいるところも含めてでありますけれども、ある意味環境を破壊するとか、実は環境をいじめた形で我々の住環境が成り立っているということがありますので、今の状況がいいか悪いかはともかくとしても、いろいろな場所でトラブルになっていたり、いろいろな問題が起きていたりするケースがあると思います。そういった典型的な例だとか事例をぜひ教えていただきたいと思います。

それと、横浜は広いですから、横浜市内にもまだ非常に自然豊かなところが残されていたりするわけです。これは、やはり横浜市にとっての宝だと私は思っております、その中であっても、例えば環境省が指定している希少種に属している動植物が横浜市内にあたりするわけです。こういったものを守っていくことも、これからの横浜にとっての責務だと思っておりますので、こういった環境省が指定しているレッドブックなどに出ている希少種についてのデータを教えていただきたいと思います。

それと、情報化でありますけれども、先ほど、横浜市のホームページに対するご意見もございましたが、実は私、今日、どういう方々がメンバーなのかと思って、昨日の夜、横浜市のホームページで、この審議会のメンバーを確認しようと思って見たら、まだメンバーが工事中だったんですね。多分、きょうはアップされると思いますけれども、横浜市のホームページは非常にページ数が多いものですから、こと細かいところまでなかなか手が回らないと思いますけれども、やはりそれは職員の意識一つ一つで注意すれば、自分が受け持っているページに関して少しずつ責任をみんなで分担すれば解消できるも

のだと思います。やはり、情報の遅れとかそういった問題もあると思います。こういったことに対して、横浜市のホームページを例に挙げて恐縮ですけれども、こういった基準でホームページにデータがアップされているのか、こういった条件なども教えていただきたいと思います。

それと、資料には、「市民が「いつでも、どこでも」世界とつながる環境」とあるわけですけれども、例えば横浜市内の施設一つとっても、地下鉄の中で、私はあざみ野から地下鉄に乗っていますけれども、地上区間は携帯電話の電波がつながるんですけれども、地下に入ると電波がつながらない。私がちょっとおかしいなと思っているのは、電車や公共交通機関で携帯電話は使っちゃいけない、メールはいいけれども話しちゃいけないとあるわけですね。国際的に見て、私はいろんなところの地下鉄に乗ったりしますが、話しちゃいけないと言われるのは日本ぐらいしかないと思うんです。やはり横浜はビジネス都市を目指しているわけですから、市民の理解が得られないのであれば、例えば女性専用車両なんていうのもあるわけですから、1つ車両を、電話で話しても構いません、大いにビジネスをやってください、こういう車両があってもいいと思うんです。携帯に電話がかかってくるような予定があるときは、残念ながら地下鉄が使えないので、私は車で来ますけれども、こういったことにもつながってしまうと思います。

こういった国際的な違いなども少し考えていく必要があるんじゃないかなと思います。典型的な例が、空港のラウンジなんかは、日本系の航空会社は電話しちゃいけないというんですけれども、アメリカ系の航空会社は、みんな自分のラウンジの席で仕事をしたりしているわけです。こういった国際的な違いなどもあるのではないかなというふうに思っております。

いずれにいたしましても、多岐にわたりますので、精力的に部会運営にかかわってまいりたいと思います。

【部会長】

大分、大量の要求がございましたので、事務局は大丈夫ですか。ありがとうございます。

【委員】

必要なデータ等については、皆さんのご発言の中で随分と挙がっていたかと思います。私は、横浜市はオンリーワンということを目指していると聞きまして、非常にいいことだなと思ったんですけれども、やはり世界からオンリーワンとして選ばれるまちとなっ

ているのかというのを、住まわれている方もそうですけれども、海外に、今、籍を置かれていて、新しく起業することを考えている経営者ですとか、学生ですとか、いろんな方がまず横浜を知っているのかというのが1つと、それから、ほんとうに選ぶのが、魅力があるのかというところを探れたらなというのが1つ。

もう一つは、難しいかもしれないですけれども、私たち自身が果たしてどれだけグローバル化しているのかという実態をつかむ必要があって、単に言語がしゃべれるだけの話ではなくて、コミュニケーション能力を持っているのかとか、外国企業の中で働けるだけのケーパビリティを持った人材がどれだけいるのかとか、そういう人材がいることによって、横浜で起業する意味があると思うんですね。そういった人材を育成するということ、そういった非常にグローバル人材の多いまちだということになれば、選ばれるまちにもなるかと思うし、また、私たち市民の意識も上がって、うまくいけば雇用の安定化にもつながるのではないかと思います。

私も横浜に住んでいながら東京で働いているんですけども、横浜に住んで横浜で働く、職住接近ということが実現できれば、これから女性とかシニアの方が働きやすい環境というのも実現できると思いますし、いろいろなことを申し上げちゃって恐縮なんですけれども、私たちの意識のグローバル化、どれだけの準備ができていいのかというようなことも、何か実態をつかめるようなデータがあればちょうどできればなと思いました。

【部会長】

いろいろなデータの要求があるんですが、かなりの部分はこれから調査するのはおそらく間に合わない。ですから、既存の調査をできるだけ探していただいて、今の委員の要求にこたえられるような対応をぜひ事務局にお願いしたいと思います。

ただ、中には1つか2つ、改めてデータ整理しなきゃいけないようなこともあるかもしれません。例えば先ほどの外国人のデータ、あの辺は大分ご意見が出ました。これは市が持っているデータでありますので、それをうまく整理できて、我々の議論の参考になるようなデータをまとめていただけないかなと私からも希望として申し上げさせていただきます。

【委員】

大変お手数ですが、もう一つあります。

横浜市の臨海部、中区、南区、西区、鶴見区もあればいいんですけども、交通量の

データがあれば大変助かります。都市部の温度が下がる方法として、大きな公園を入れるのも1つの方法なんですけど、あまり交通で使われていない道路を歩道専用にして、街路樹とかをいっぱい植える方法もあります。ですから、なるべく全面的な交通量とか交通規制に影響を与えないような、交通が低い道路とかを調べたいと思っております。

【部会長】

ただ、横浜は道路網がまだ十分じゃないんです。

だから、おそらく、今ある道路をそういう形で変えるというのはなかなか難しい。

ただ、今、中には緑地とか公園を通るところに計画されている道路があるんですね。それはもうやめたほうがいいだろう、公園は公園として残しておいたほうがいいだろうというふうに思っていますので、そういうデータはたしか市で持っていると思います。おそらく、ある程度は同じような議論だと思うんです。これから道路をつくるのではなくて、つくるとしたら、公園をつぶさないように道路を迂回させてつくるほうがいいのではないかというような議論はたしか市でやっていたと思いますので、そういうデータはあると思いますが、それを少しご開陳いただければと思います。

【委員】

経済関係の中で、先ほどご説明で、外資系の企業が増えてきているということでございますけれども、外資系の企業の業種別に、どんな企業が横浜に来ているのかということと、それから、横浜のいわゆる製造業を中心に海外に生産拠点を移している業態がどういう業種なのかということ。それから、全体的に製造業が横浜市内で減少しているということですが、製造業のうちどういう業種が今減少しているのか、全般的に減少しているのか、特異性があるのか、そのデータがあればいただきたいと思います。

【委員】

実は、ICTに興味があります。それで、現在、ICTの時代なんですけど、横浜のウェブサイトに行ったときは、やはりシティマーケティングが足りないと思います。私は、ICT戦略とか政策はどういうのがあるのか聞きたいと思います。

【部会長】

それをデータとして後でほしいということですね。わかりました。ICT、都市的に情報化はどのように計画をつくっているかという情報が欲しいと。

よろしいでしょうか。予定の時間は既に過ぎておりまして、ちょっと時間が短いんですね。次回以降、もう少し時間がとりますので、ぜひご議論いただきたいと思います。

次回以降の部会日程の調整

【部会長】

それ以外に、事務局から何かありますか。

【事務局】

総会でもお話がありましたけれども、会議は公開ということになりますので、部会の議事録につきましても公開させていただきますので、ご了承いただきますようよろしくお願いいたします。

【部会長】

それでは、大分遅くなりましたけど、これで第1回の部会を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

了